

学年 高校2年 特別進学 〔文系〕	教科 数学	科目 数学B	教科書名 数学B Advanced (東京書籍)	副教材名 PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍)
----------------------------	----------	-----------	--------------------------------	-------------------------------

1. 授業のねらい

- ① 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。【知識・技能】
- ② 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。【思考・判断・表現】
- ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。【主体的に学習に取り組む態度】

2. 授業のすすめ方

- ① 授業は基本的に教科書の内容を中心に展開します。学習の基本となる授業を大切に、常に意欲を持って取り組むようにしましょう。
- ② 演習の時間は問題を繰り返し解き、教え合いながら学習内容を定着させましょう。

3. 学習上の留意点

- ① 予習をすると授業内容の理解がスムーズになります。Classi の学習動画やスタディサプリの講義動画を視聴して、どんな内容を学習するかを事前に知ることによって授業の理解度があがります。
- ② 演習の時間はまず自分ひとりで問題に取り組み、何がわかっていて何がわからないかを考えましょう。
- ③ 自分がわからないことを相手に伝えたり、わかっていることを相手に教えたりすることによって学習が進みます。能動的に取り組みましょう。
- ④ 授業の後は、計画的に問題集に取り組み、学習内容を定着させましょう。ヒントなしで解ける問題がひとつでも増えることを意識してください。
- ⑤ 学習内容の定着を確認するために、7. 授業計画 の「到達目標」が達成されているか確認しましょう。

4. 副教材・参考文献

- ① 副教材：PRIME 数学Ⅱ+B (東京書籍)
- ② 参考書：特に指定しませんが、必要であれば自分にあった参考書を購入し活用してください。

5. 評価方法

- ① 定期考査：100点満点の試験を年5回実施します。
- ② 平常点：1・2学期はそれぞれ20点、3学期は10点です。
授業(グループワーク時の取り組みも含む)に対する関心・意欲・態度など平常の学習態度と、課題の提出、小テストなどで評価します。
- ③ 観点別評価：定期考査、平常点等を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

6. 定期考査

- ① 内容：教科書、授業内容、副教材を中心に、基本的な内容を問う問題を中心に出題します。
 - ② 各定期考査の範囲
 - ・ 1学期中間考査：【数学B】1章1節 数列
 - ・ 1学期期末考査：【数学B】1章2節 漸化式と数学的帰納法
 - ・ 2学期中間考査：【数学B】2章1節 標本調査、2章2節 確率分布
 - ・ 2学期期末考査：【数学B】2章3節 正規分布、2章4節 統計的な推測
 - ・ 3学期期末考査：【演習】数学I・A・B
- ※ 進捗状況により変更になる場合があります。
※ 正式な各定期考査の範囲は、考査の1週間前頃に担当者より発表します。

7. 授業計画

	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	【数学B】 1章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業 ・課題提出 ・小テスト など <ul style="list-style-type: none"> ・定着を確認するために右記「到達目標」を活用してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 ・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・数学的帰納法について理解することができる。 ・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 ・自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。
	5	1節 数列 1 数列 2 等差数列 3 等比数列		
	6	4 和の記号 Σ 5 階差数列 6 いろいろな数列		
	7	2節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法		
	9	2章 統計的な推測		
	10	1節 標本調査 1 母集団と標本		
	11	2節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の平均と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布		
11	3節 正規分布 1 正規分布			
11	4節 統計的な推測 1 母集団の分布 2 標本平均の分布 3 母平均の推定 4 仮説検定の方法			
三 学 期	1	【数学 I・A・B】 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業 ・課題提出 ・小テスト など 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに対応できる学力を身に着ける。
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・定着を確認するために右記「到達目標」を活用してください。 	
	3			